



2022年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年5月9日

上場会社名 協立電機株式会社

上場取引所 東

コード番号 6874 URL <http://www.kdwan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西 信之

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 平井 伸太郎

TEL 054-288-8899

四半期報告書提出予定日 2022年5月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年6月期第3四半期の連結業績(2021年7月1日～2022年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第3四半期	21,643	2.7	1,320	12.8	1,370	9.0	931	12.3
2021年6月期第3四半期	21,070	15.8	1,170	31.5	1,257	28.5	829	25.4

(注) 包括利益 2022年6月期第3四半期 989百万円 (1.0%) 2021年6月期第3四半期 980百万円 (3.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年6月期第3四半期	231.42	
2021年6月期第3四半期	206.14	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年6月期第3四半期	26,204	14,886	54.3
2021年6月期	24,049	14,111	56.1

(参考) 自己資本 2022年6月期第3四半期 14,229百万円 2021年6月期 13,480百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年6月期		0.00		55.00	55.00
2022年6月期		0.00			
2022年6月期(予想)				55.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年6月期の連結業績予想(2021年7月1日～2022年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,100	17.6	2,000	60.3	2,100	52.1	1,300	50.3	323.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年6月期3Q	4,369,200 株	2021年6月期	4,369,200 株
期末自己株式数	2022年6月期3Q	344,954 株	2021年6月期	344,954 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年6月期3Q	4,024,246 株	2021年6月期3Q	4,024,401 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響が徐々に緩和され持ち直しの兆しが見られたものの、世界的には変異株の出現等により再拡大が懸念されております。また、2月下旬にはロシアによるウクライナ侵攻が始まり地政学的なリスクが急速に高まり、資源価格の高騰や一部の原材料不足の影響が更に拡大したこと等から景気の先行きはますます不透明感が拭えないまま推移いたしました。

当社グループとしましては、経営基本方針としている「One Stop Shopping」施策を引き続き推し進め、受注範囲の拡大及び収益性の向上を目指し、新たなビジネスモデルの構築に尽力して参りました。人手不足が深刻化する環境下での省力化投資によるロボットに対する需要拡大、さらにはロボットの作業範囲を広げるAIの進展等、当社グループには強い追い風が吹いております。当第3四半期連結累計期間においては景況感の回復に伴い製造業における設備投資意欲は旺盛であったものの、年度末にかけ昨年より続いている半導体や樹脂不足、これに原材料価格や輸送費の高騰等が大きく影響しております。

国内外のお客様におかれましては、生産量そのものは殆どコロナ前に回復しつつあります。今後は、新規の設備投資・研究開発投資が一時的な波はあるにせよさらに拡大していくことが予想されます。設備・研究開発投資依存型のビジネスモデルの当社グループの業績は、多少の時差を伴って拡大期を迎えるものと予想しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は216億43百万円（前年同四半期比2.7%の増）となり、損益面としましては営業利益が13億20百万円（同12.8%の増）、経常利益が13億70百万円（同9.0%の増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が9億31百万円（同12.3%の増）となりました。

なお、当社グループのセグメント別概況は次のとおりです。

<インテリジェントFAシステム事業>

インテリジェントFAシステム事業では、コロナ禍でのIoTを活用した設備投資の増大により各種検査装置が好調だったこと、水質検査システムや各種自動化システムの需要が拡大していること、「One Stop Shopping」施策が好調であること等により比較的順調に推移しておりましたが、一部の原材料不足の影響を受け、前年同四半期に比べ減収・増益となりました。

以上の結果、インテリジェントFAシステム事業の当第3四半期連結累計期間における売上高は77億64百万円（前年同四半期比1.8%の減）、営業利益は9億14百万円（同30.5%の増）となりました。

<IT制御・科学測定事業>

当事業のうちIT制御は主として製造業の合理化・研究開発の自動化等を目的とした設備投資の対象であるため、比較的景況の影響を受け易い傾向にあります。一方、当事業でも科学測定事業は科学分析・計測機器等の代表される企業の新製品開発を目的とする部門や品質管理部門を対象とするため、景気の動向に左右されにくく、安定的な分野であります。当第3四半期連結累計期間においては研究開発投資は依然旺盛であるものの半導体や樹脂を始めとした原材料不足と価格高騰から収益性の悪化も見られ、前年同四半期に比べ増収・減益となりました。

以上の結果、IT制御・科学測定事業の当第3四半期連結累計期間における売上高は138億58百万円（前年同四半期比5.5%の増）、営業利益は5億95百万円（同8.4%の減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産の合計額は262億4百万円で、前連結会計年度末に比べ21億55百万円の増加となりました。これは主として受取手形、売掛金及び契約資産と電子記録債権を合わせた売上債権と商品及び製品、仕掛品、原材料の棚卸資産が増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、負債の合計額が113億18百万円で、前連結会計年度末に比べ13億80百万円の増加となりました。これは主として支払手形及び買掛金と電子記録債務を合わせた仕入債務と流動負債のその他が増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、純資産の合計額が148億86百万円で、前連結会計年度末に比べ7億74百万円の増加となりました。これは主として親会社株主に帰属する四半期純利益等により利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本資料に記載されております業績予想につきましては、2021年8月10日に公表いたしました予想数値から変更ありません。なお、業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,287,688	6,044,986
受取手形及び売掛金	6,829,069	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	8,045,036
電子記録債権	1,891,413	2,526,521
有価証券	-	100,253
商品及び製品	360,753	584,895
仕掛品	488,121	464,437
原材料	478,500	582,051
その他	220,632	207,563
貸倒引当金	△15,455	△40,440
流動資産合計	16,540,724	18,515,305
固定資産		
有形固定資産		
土地	3,925,130	4,041,222
その他(純額)	994,265	1,108,909
有形固定資産合計	4,919,395	5,150,131
無形固定資産		
投資その他の資産	129,576	148,862
投資有価証券	1,588,273	1,557,293
その他	1,222,945	1,115,933
貸倒引当金	△351,530	△282,656
投資その他の資産合計	2,459,689	2,390,570
固定資産合計	7,508,661	7,689,564
資産合計	24,049,386	26,204,869
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,062,926	5,691,761
電子記録債務	1,447,010	1,705,544
1年内返済予定の長期借入金	-	1,100,000
未払法人税等	175,907	259,187
賞与引当金	156,381	321,490
役員賞与引当金	35,700	-
その他	646,777	950,775
流動負債合計	7,524,702	10,028,758
固定負債		
長期借入金	1,880,000	780,000
退職給付に係る負債	430,478	434,580
その他	102,319	74,719
固定負債合計	2,412,797	1,289,300
負債合計	9,937,500	11,318,058

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,441,440	1,441,440
資本剰余金	1,872,124	1,872,124
利益剰余金	10,392,729	11,114,355
自己株式	△424,862	△424,862
株主資本合計	13,281,431	14,003,057
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	207,108	232,827
退職給付に係る調整累計額	△8,305	△6,831
その他の包括利益累計額合計	198,802	225,996
非支配株主持分	631,651	657,756
純資産合計	14,111,885	14,886,810
負債純資産合計	24,049,386	26,204,869

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年7月1日 至2021年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2022年3月31日)
売上高	21,070,098	21,643,931
売上原価	17,110,954	17,488,425
売上総利益	3,959,143	4,155,506
販売費及び一般管理費	2,788,567	2,835,043
営業利益	1,170,575	1,320,463
営業外収益		
受取利息	2,193	1,754
受取配当金	12,324	22,963
仕入割引	20,090	23,055
為替差益	5,995	9,934
貸倒引当金戻入額	2,884	-
解約精算金	20,250	-
雑収入	31,037	18,587
営業外収益合計	94,775	76,295
営業外費用		
支払利息	2,795	2,587
売上割引	2,871	3,160
貸倒引当金繰入額	-	20,780
雑損失	2,232	-
営業外費用合計	7,899	26,528
経常利益	1,257,451	1,370,229
特別利益		
固定資産売却益	45	19
投資有価証券売却益	24,292	82,440
保険解約返戻金	-	4,012
特別利益合計	24,338	86,473
特別損失		
固定資産除却損	10	570
特別損失合計	10	570
税金等調整前四半期純利益	1,281,779	1,456,132
法人税等	423,227	483,529
四半期純利益	858,551	972,602
非支配株主に帰属する四半期純利益	28,953	41,330
親会社株主に帰属する四半期純利益	829,598	931,272

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)
四半期純利益	858,551	972,602
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	1,142	1,474
その他有価証券評価差額金	120,383	15,329
その他の包括利益合計	121,526	16,803
四半期包括利益	980,077	989,406
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	942,313	958,465
非支配株主に係る四半期包括利益	37,764	30,940

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、工事請負契約等に関して、一定の期間にわたり充足される履行義務については、期間がごく短い場合を除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。また、期間がごく短い工事及び一時点で充足される履行義務については工事完了時に収益を認識する方法を採用しております。なお、履行義務の充足に係る進捗率の見積りの方法は、主に見積総原価に対する実際原価の割合(インプット法)で算出しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は149,086千円増加し、売上原価は101,969千円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ47,117千円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は11,686千円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	インテリジェントFAシステム事業	IT制御・科学測定事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,910,070	13,136,047	21,046,117	23,980	21,070,098
セグメント間の内部売上高又は振替高	218,244	235,307	453,551	57,168	510,720
計	8,128,314	13,371,354	21,499,668	81,149	21,580,818
セグメント利益	700,579	649,696	1,350,276	71,144	1,421,421

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,350,276
「その他」の区分の利益	71,144
全社費用(注)	△250,845
四半期連結損益計算書の営業利益	1,170,575

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	インテリジェントFAシステム事業	IT制御・科学測定事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,764,442	13,858,080	21,622,523	21,408	21,643,931
セグメント間の内部売上高又は振替高	392,311	428,524	820,836	55,406	876,243
計	8,156,754	14,286,605	22,443,359	76,815	22,520,175
セグメント利益	914,275	595,262	1,509,537	67,141	1,576,679

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,509,537
「その他」の区分の利益	67,141
全社費用(注)	△256,216
四半期連結損益計算書の営業利益	1,320,463

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。